

富士市立高等学校 学校運営協議会		第39回	会議要旨 (令和7年度)
開催日 令和8年2月12日 木曜日 開会 14時00分 閉会 16時30分	会議場 富士市立高等学校 2階 会議室 オンライン併用		
出席者 *敬称略 【学校運営協議会委員】 菅野大樹 木野正美 櫻井祥行 塩田真吾（オンライン） 中村孝一 豊島実侑、橋本仁 井上美千子、畑 裕美、吉村直也委員は所用のため欠席 【市立高校教員】 飯嶋雄三 青木伸介 見城喜哉 石村俊樹 望月佑輔 後藤大輝 佐野大悟 佐藤かおり 杉山秀幸 勝又 誠 城 三奈 鈴木誉野 増田竜一 藤原恵里子 相庭健人 平原和美 【市立高校職員】・【市教育総務課】 榎 俊英 吉野正敏 永尾倫子 滝 陽介			
開会			
会長挨拶 <ul style="list-style-type: none"> 先週行われた探究学習発表会では、生徒が自ら選んだテーマで自信を持って楽しそうに発表する姿に感動した。数字上のエビデンスも重要だが、生徒の主体的な姿こそが本校の強みであり、大きな成果であると感じている。 本日は授業参観や活動報告を踏まえ、委員の皆様から活発な意見をいただきたい。 			
校長挨拶 <ul style="list-style-type: none"> 11月以降の活動として、マレーシア、シンガポール、香港への海外研修を実施した。多民族・多宗教の文化に触れる体験は、他者を認める人間関係づくりを学ぶ上で非常に有意義であった。 探究学習（ポスターセッション）では、生徒が半年間考え抜いた多様なテーマを発表し、外部の方からも高い評価を得た。一方で、この活動をいかに学力向上や国公立大学合格などの進路実績に結びつけていくかが今後の課題である。 プロスポーツチーム（くふう八ヤテ、ベルテックス静岡、東レアローズ等）との連携による地域交流が盛んになっており、生徒の自信や地域貢献意識の向上に繋がっている。 			
◇海外探究研修に関する報告			
①スポーツ探究科			
<ul style="list-style-type: none"> 11月29日から12月4日まで香港で海外探究研修を実施し、羽田空港に現地集合、前泊したのち香港へ出発。到着後はホテル周辺の散策。夜には「光のショー」を見学する予定であったが、マンション火災による自粛で中止となった。 			

- ・ 3日目は、午前中に太極拳の体験と科学博物館の見学を実施。午後はフェリーで移動し、スマホアプリを活用して班ごとに現地の文化・歴史を学ぶミッション活動を行った。
- ・ 4日目は、香港情勢により現地校への直接訪問は叶わなかったが、フェリーでラマ島へ渡り、古い香港の街並みを見学しながらハイキングを実施。夜には、交流校の生徒がホテルを訪れ、一緒に夕食や買い物をして交流を深めた。
- ・ 5日目は午前中に現地の中学生と学校周辺でトラクトレーニングを実施し、午後はドラゴンボート体験と島のごみ拾いボランティアを行った。
- ・ 生徒の様子、学びとして、羽田への現地集合は研修の一環として生徒も自ら調べて集合することに満足感を得ていた。
- ・ 「報道される情報だけでなく、自分の目で見た真実を信じてほしい」という現地の方の言葉を通じ、情報の正しさを自分で見極める大切さを学んだ。
- ・ 翻訳アプリを使いこなしながら、積極的に現地の人とコミュニケーションを図る姿が見られた。

②総合探究科

- ・ 11月29日に成田へ現地集合し、翌日クアラルンプールへ到着。
- ・ 3日目は、現地の高等学校を訪問し、数学、芸術、科学の授業に現地生徒と共に参加。また、9月の集中研修で準備したプレゼンテーションを各クラスの代表が発表した。その後、チャイナタウン周辺でヒントを頼りに巡るミッション活動を実施。
- ・ 4日目はサンウェイ大学（Sunway University）を訪問し、ホスピタリティの講義や実技を体験。日本人留学生との質疑応答も行った。夜は伝統的な村落カンポン・バルを訪れ、地元の人々と夕食や球技を通じて交流した。
- ・ 5日目は、終日、班別の自由研修を実施し、生徒が自ら計画した探究活動に取り組んだ。
- ・ 生徒の様子、学びとしてアンケートでは96.5%の生徒が満足と回答し、特に「班別研修」が最も印象深い活動として挙げられた。
- ・ 研修を通じて「異文化理解力」「チームワーク」「コミュニケーション力」の向上が確認された。発表設備の不備でプレゼンが思い通りにいかない場面もあったが、それも一つの経験として次年度への課題となった。

③ビジネス探究科

- ・ 11月29日～12月3日の日程で、シンガポール、マレーシアを訪問。昨年とほぼ同じ日程で、初日は学校に集合し全員で空港に向かい、日付が変わったところでシンガポールへ出発。
- ・ 2日目はシンガポール到着後、現地の大学生と行動するB&Sプログラムに参加し、両替や地下鉄の乗り方を教わりながら街を巡った。夕刻にはマリーナベイサンズの見学を実施。
- ・ 3日目は陸路でマレーシアへ入国し、現地校（SMK TAMAN TUN AMINAH）と交流。筆ペンとうちわを用いた日本文化体験を提供した。その後、現地の家庭でのホームビジットを体験し、昼食をいただいた。

- ・4日目は、昨年に続き、鹿島建設の鹿島ディベロップメントで企業研修を実施。午後は班別の自由研修を行い、深夜便で帰国の途についた。
- ・生徒の様子、学びとしてホームビジットでは、伝統的な「手で食べる」文化に触れ、当初の抵抗感が「ご飯が一番美味しかった」という好感へと変化した。
- ・企業研修にて「綺麗な英語よりも、伝えようとするコミュニケーション能力が重要」との助言を受け、英語への苦手意識がある生徒も自信を深めた。
- ・自由記述では「異文化への抵抗が好感に変わった」「自分にとってプラスの経験になった」という前向きな意見が100%を占めた。

◇令和7年度進路状況報告

- ・就職はほぼ内定し、進学についても年内入試で高い合格率を維持している。特に常葉大学の年内入試では他校が苦戦する中で本校の生徒はかなり健闘している。日頃の探究学習や、先生方による一対一の熱心な個別指導の成果であると考えている。

部活動の近況について

- ・新人戦等で多くの部が活躍しており、特にチアリーダーク部が全国大会出場を決定した。
- ・野球部の春季大会が地元の富士球場で開催されるほか、文化部も地域イベントやベルテックス静岡のボランティアに積極的に参加しており、地域からの評価が非常に高い

授業参観 学校内を見学しながら、各授業を参観していただいた。

授業参観、海外探究研修に関する質疑応答

(意見・質問等)

・本日の授業参観では、市立高校の特色である「対話」や「生徒同士の活発な関わり」があまり見受けられず、一般的な授業風景であった点が少し残念だった。次回以降は、一対一での対話やグループワークなど、本校らしい主体的な学習の様子をぜひ拝見したい。

(意見・質問等)

・ビジネス探究科の報告で、シンガポールのホームビジット(家庭訪問)の評価が昨年から大幅に改善されたとのことだが、その要因は何か。生徒が文化の違いに戸惑わないよう、事前の心構えや指導内容を工夫したのか。

(回答)

・事前指導については例年通り「手を使って食べる」「床で座って食べる」といった現地の生活習慣を十分に説明した上で送り出している。評価が向上した最大の要因は、今年度訪問した「村」の環境にあると考えている。昨年に比べて住居が広く清潔で、生活水準が比較的高い家庭が多かったことが、生徒の満足度につながったのではないかと。

(意見・質問等)

・授業参観で数学の授業を拝見したが、非常に印象的だった。かつての「黒板に向かって黙々と問題を解く」という数学のイメージとは異なり、生徒同士が議論を交わしながら進めるスタイルに驚いた。

(意見・質問等)	・各学科の研修報告や生徒一人ひとりの事後アンケート（自由記述）を拝見し、研修の前後で物事のコエ方や多角的な視点が大きく変化している生徒が多いと感じた。
(意見・質問等)	・授業参観で、高校の時から対話力や協調する姿勢を身に付ける環境が整っているのは改めて良いと感じた。
(意見・質問等)	・香港について、現地との交流が上手いかなかったとのことだが、事前にわかっていたのか？
(回答)	・突然の変更ということだった。
(意見・質問等)	・来年度も中国圏内であれば、そういったことも考慮して計画した方が良い。
(意見・質問等)	・海外探究研修について、生徒の学びが多かったことがアンケートからもうかがえるので非常に良かったと思う。
(意見・質問等)	・小中学校の修学旅行でも事前学習を行うが、今回、事前学習にはどの程度時間を割いたのか？
(回答)	・ビジネス探究科では、夏の集中研修時に2日間行っている。それ以外も含めると15時間は行っている。現地校との文化交流に向けた出し物の企画・立案や、現地の生活環境・風習についての具体的なオリエンテーションを行った。 ・総合探究科でも、人文探究の授業や9月の集中研修でEnglishCampを行う中で、意識づけを行っている。後は英語の授業で2～3時間、ロングホームルームの時間で4時間ほど準備をしている。

◇生徒、保護者、教職員アンケートの結果について（資料20ページから）

- ・生徒アンケートでは、全14項目の質問に対し、約85.7%の生徒が肯定的な回答（満足）をしており、昨年度・一昨年度に引き続き高い水準を維持している。
- ・保護者アンケートでは、本校の教育活動に対し概ね高い期待と好評を得ており、特に「進路指導」への満足度は年々向上している。教職員と保護者の信頼関係は概ね良好だが、さらなる向上を目指している。
- ・教職員一人ひとりが「富士市立高校」としての教育目標や実情を正確に捉え、自覚と意欲を持って教育活動に取り組んでいることが、アンケート結果からも明確に示されている。

◇学校経営報告（学校評価）について（資料24ページから）

- ・生活習慣の確立の中で、朝読書があるが、落ち着いた環境で一日を始める指導を行っている。特定の生徒の遅刻等が数値を下げているが、概ね定着している。
- ・学校の安心安全で交通指導については、自転車事故が多い富士地区の課題として、ヘルメット着用や安全運転を指導している。特にアシスト自転車の操作ミスによる事故が多い。教員だけでは対応が難しい面もあるため、家庭ぐるみで対策が必要になる。
- ・教育相談については不登校傾向の生徒に対し、担任・保健室・スクールカウンセラーが連携するシステムが確立されており、進路変更（退学等）の減少につながっている。

- ・海外研修については、生徒の満足度も高く、挑戦する意欲と態度については、自分の将来目標に向かう意欲（コンピテンシー）は着実に育っており、進路決定の結果にも表れている。
- ・英語資格・検定試験については、多くの生徒が受験している。生徒もキャリアを意識して受験しており、個人的にはAでも良いと思っている。
- ・学習習慣の確立については毎年、課題として挙がり唯一のC評価だが、部活動に打ち込む生徒が多く、「文武両道」を目指すものの、疲労により家庭学習が疎かになる傾向がある。「授業内でいかに頑張らせるか」を今後考えていく必要がある。
- ・魅力ある授業実践については、従来の講義形式は大幅に減り、数学をはじめ多くの科目で生活に密着した内容や「対話重視」の授業を展開している。
- ・地域連携について、PTAとの活動はコロナ禍で停滞した活動が復活しつつある。

質疑応答

(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の評価 C は課題だが、生徒は全体として前向きに学校生活を送っている点は評価できる。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間に関して、教員側は 7 割が適切に宿題を出しているとあるが、生徒は週 5 日以上学習が 4 割を切るなど、両者の意識のギャップがあるように見える。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間データを分析すると、週 5 日以上学習している生徒は約 3 割で、アンケート結果と大きな差はない。これを週 3 回以上とすると大体 6 割程度となる。仮に 6 割を目標とするのであれば、週 4 日以上が適切とも思える。 ・各教科が課題を出す中で量の調整は難しく、出し過ぎれば負担増や不登校リスクもあるため、バランスを見ながら設定するしかない。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・指標の「週 5 日以上家庭学習をする生徒の割合 6 割」に何か根拠はあるのか？
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・特にあるわけではない。しかし、数値を減らしていくのは勇気がいる。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、他校の様子はどうなのか、それを参考にしてみるのも良いかもしれない。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習だけでなく、放課後や隙間時間、友人同士の学習も増えている可能性がある。メモや計画表などで学習意欲を高める環境づくりが有効ではないか。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な場所で勉強をしている生徒が多い中で家庭学習という考え方ももっと柔軟に考えても良い。家以外でやっている時間も考慮しないと正しく評価できない。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の「3 日以上 20 時まで残らない」という指標について、残業規制の基準や休日出勤含め、残業時間を抑える取組みはしているのか？
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠は、以前月 80 時間の残業規制の目安があり、静岡県の部活動のガイドライン等も含め、検討した。しかし、来年度は給特法の改正に伴い、月 30 時間を目安ということもあり、業務の管理も含め目標を見直す予定である。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新数については、週 8.2 回更新しており、評価軸でみると A でも良いと感じる。アクセス数減で B 評価だと思うが、来年度はアクセス数も評価項目

	<p>に入れることを検討しては？</p>
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の学習の定義については、国語数学という教科教育、勉強だけでなく、好きなことを学ぶ時間等も含めて、広く捉えることを検討してほしい。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区のイベントにも先生方はよく参加されている。先生方にも家庭があるので残業時間については考える必要がある。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・模試や検定にチャレンジという指標について、3年生になると低下しているが、本来は逆のように感じる。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科目で検定受験生徒が多いが、進路が決まる前までは前向きだが、決定後は難しい。それでも3年生の中には1月に簿記検定を受けて合格をしている生徒もいる。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・評価イの2年生の進路決定者が多い点で、具体的に進路啓発というか進路指導はどうしているのか？
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別何かをしているわけではないが、卒業生や先輩の声を聞かせる活動を増やしている。教員からも3年生担任が2年生に講話し、進路室に足を運ぶ生徒が増えた等、そういった指導を常に心がけている。
(意見・質問等)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間電気使用量の40%削減という指標について、現実的に厳しいのではないか？
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年から6年にかけてESCO事業でLED化や空調を更新した。その際、事業者から既存使用量の半減が見込まれるということで、40%削減とした。
(結論)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から提示された評価について特に変更はせず、学校の評価を承認する。 ・本日出された意見を令和8年度の学校経営計画の参考にさせていただきたい。
閉会	